

令和元年度第3回練馬区在宅療養推進協議会認知症専門部会会議要録

- 1 日時 令和2年1月23日(木) 午後7時～9時
- 2 場所 練馬区役所本庁舎5階庁議室
- 3 出席者 <委員>
古田委員、高橋委員、塚本委員、斎藤委員、大嶋委員、鵜浦委員、油山委員、志寒委員、神野委員、山田委員、芹澤委員、今井委員
中田委員(高齢施策担当部長:部会長)、屋澤委員(高齢者支援課長)、枚田委員(地域医療課長)、風間委員(介護保険課長)、浜崎委員(高齢社会対策課長)
<事務局>
高齢者支援課
- 4 公開の可否 公開
- 5 傍聴者 0名 (傍聴者定員10名)
- 6 次第
 - 1 開会
 - 2 令和元年度在宅療養推進事業実施結果について
 - 3 認知症フォーラム実施結果について
 - 4 認知症ガイドブックの改訂について
 - 5 令和2年度在宅療養推進事業スケジュール(案)について
 - 6 第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定に向けて
・認知症施策検討シート(たたき台)について
・本人ミーティング・ワーキンググループ(中間報告)について
 - 7 その他
- 7 資料
 - 資料1 令和元年度在宅療養推進事業実施結果
 - 資料2 認知症フォーラム実施結果
 - 資料3 認知症ガイドブックの改訂について
 - 資料4 令和2年度在宅療養推進事業スケジュール(案)
 - 資料5 認知症施策検討シート(たたき台)
 - 資料6 本人ミーティングワーキンググループ(中間報告)
- 8 事務局 練馬区高齢施策担当部高齢者支援課在宅療養係
電話 03-5984-4597

9 会議の概要

(事務局)

【出席確認、資料確認、異動にともなう庁内委員の交替について】

(新任委員) 【挨拶】

(部会長)

【挨拶】

資料1 在宅療養推進事業実施結果について報告を。

(事務局)

【資料1】 説明

(部会長)

本件について意見、質問はあるか。

(なし)

資料2 認知症フォーラムの実施結果について報告を。

(事務局)

【資料2】 説明

(部会長)

認知症フォーラム主催の認知症サポートセンター・ねりまの委員いかがか。

(委員)

今回60名の方に参加いただき、原点に帰ったようなフォーラムでした。市川先生の講義も、介護している方にもう一度気づいてほしい内容など説明をいただいた。

身近にいる様々な職業の方が参加していただき、気づかなかった話も聞くことができ、参加された方の感想も良かった。自宅で介護することへの不安も少し軽くなる、といった感想もいただいた。

今後、今回いただいたアイデアを生かしていきながらフォーラムをやっていきたい。

(部会長)

この件について質問等いかがか。

(なし)

資料3 認知症ガイドブックの改訂について説明を。

(事務局)

【資料3】 説明

(部会長)

今回の会議でご意見を反映できるのが最後とのこと、皆様のご意見をお寄せいただきたい。前回の意見を受けて修正はしているとのこと。

(委員)

板橋区では、もの忘れ外来を標榜している医療機関のリストを載せるよう改訂していた。そのように医療機関を提示する形もある。次回の改訂でも検討できればと思う。どこにかかったらいいかわからない方もいるので。

(事務局)

医療機関の掲載に関しては、今後医師会との調整も必要になる。ちなみに練馬区には、医師会がホームページで公開しているもの忘れ相談医が89ヶ所ある。認知症対応力向上研修をうけた先生方、それから認知症サポート医といった先生方がいる医療機関である。

(部会長)

他、いかがか。

発行は本年4月ということでお気づきの点があれば、この会議以外でも教えていただければ対応できる範囲で対応させていただく。

資料4 令和年度在宅医療推進事業スケジュール案について説明を。

(事務局)

【資料4】 説明

(部会長)

本件についてはいかがか。

(なし)

つづいて第8期高齢者保健福祉計画介護保険事業計画の策定について。現時点の計画は令和2年度で終了する。令和3年度からの三か年計画をこれから検討していきたい、説明を。

(事務局)

【資料5、6】 説明

(部会長)

本人ミーティングに参加された委員の皆様には感謝する。順番にコメントをいただきたい。

(委員)

私は5番の田柄開催に行かせていただいた。認知症の方の言う事は、私は認知デイをやっているので、理解はできるが、同じことの繰り返しで、なんでも自分ができるって思っている方が多い。

今回参加したところでは、ご家族の方の理解があり、認知症であることを理解していた。私たちのデイでは、ご家族が認知症でいながら理解できているのかな、というご家族の方も多し。本人ミーティングにご家族も参加して、家族間でお話することにすごく興味を示して、いい勉強の場になったと思う。

今後、こういうことを続けていくにあたって、もっと勉強しなくちゃいけないということがたくさんあったので、今後も参加させて頂きたいと思う。

(委員)

むつみ台団地開催と、私の法人の小規模多機能とグループホームの地域運営推進会議への参加報告となっている。

むつみ台団地の集会所には委員も同席していただいて、初めて本人ミーティング参加させていただいた。雨で天気の悪い日でしたが、包括の方が声かけをしながらも、本人ミーティングというチラシを見て5名の方とご家族が参加されていた。

もっとたくさん認知症の方がいるはずだと思うのに、どうして今日は、ほかの方たちは集まってこられないのかしら、と、ご家族の方からも声が聞かれた。

参加させていただき、本人ミーティングイコール地域を作っていくということを、どう考えてみんなで取り組んでいったらいいのか、課題をたくさん感じた機会になった。これからも機会があれば参加させていただきたい。

(委員)

私が参加したのは、みんなのドアでの開催の本人ミーティングでした。参加させていただき感じたことは、ご家族も一緒だったんですけども、ご本人はご本人なりに苦しみ、ご家族は、ご家族の苦しみ、それぞれに非常に強くて、特にご家族がこれだけの家族支援という言葉が少しできてきたとしても、家族自身もまだまだ思いの丈を打ち明けたい場所が必要だな、ということは強く感じた。

本人ミーティングなり、グループホームでもそうですが、その場をどういう場にしたいかは、ご本人に任せることが必要です。ご本人にその場がどういう場であるか主導権を渡すということがとても大切だと思う。その点、今回参加の認知症の皆さんは、顔見知りでもとても仲の良い感じで、話題も盛り上がっていて、とてもいい雰囲気だったと思う。あとは本人同士の交流を引き出すのはどうすればいいのか、そういうことも見ていて感じた。私が後半、じっくりとお話させていただいた方は、ご自身の経歴で説明できるアルバムを持参していて、昔の写真とか仲間とか仕事とか振り返って話して楽しいよと、非常に生き生きとした顔で話されていた。そのようにアルバムを作って持参するという工夫とか、そういったものを肖像権なりプライバシーもあるので、なかなか公表されないのかもしれないけれども、こういう工夫をして生き生きと話されている、生き生きと人生を生きてらっしゃるご本人がいらっしゃる、ということ、伝えていく、それが必要だと思う。

(委員)

キリスト教会で行っている会に参加させていただいた。参加人数は10名と多く、一般の方と認知症の方も一緒に参加されていた。女性のお友達が、認知症の友達を誘ってきていて、フランクな感

じの茶話会でした。男性も参加されていたけれど、女性の方々はフランクに隣の方と親しくなってお話できる状態だったのですが、男性の方は、溶け込みにくいかな、という印象はあった。その中で、元ケアマネジャーという方で、自分がまさか病気になるとは思わなかった、という方がいた。軽度の方で、いろいろと自分の思いを話すのを聞くことができた。印象的なのは、自分ができると思っても、こういったことは駄目だよ、危ないよ、やっちゃダメ、いろんなことをやりやけても拒否される、でも自分もそういうことを実際にやっていたんだな、ということがよくわかりました、と話されていたこと。あともう一つは、危険なことはよくわかるけれども、それをダメダメって、急に威圧的に言われてしまう、それはとっても嫌だって、いうことを聞いたのが印象的でした。

また、まったくこの場がどういった場なのかわからないで参加されていると思われる方も見受けられました。あとは、男性の方でなかなか馴染めないという方にも合った場所があるのではと思って、課題にある一人一人の好みや状態に合わせた居場所が大切なことなのではないかと感じている。

(委員)

むつみ台団地の会に参加させていただいた。ご本人たちのグループそれから家族のグループの二つにわかれて話し合いを持った。地域包括支援センターの皆さんが下準備や声かけをやってくださったようだ。

夫が認知症の方は、ご本人を連れて参加できるいくつかの家族会に参加している。もう一つの家族は初めてこういう会に参加した。

初めて参加した方は、とても悲観的になっていて、私たちはもうここに住んでいられないんじゃないかと毎日思っていました、とのこと。夫の変化に、まわりの人からもいろいろ言われるようになって、ここに住んでいられなくなると思って、とても心配されていた。最初は、とても暗い感じで、もう希望が全くない、ということで始まったのですが、ご本人のグループの中で話しが盛り上がっていて、そのご主人が大声を出して笑って、楽しそうにしている姿を見て、あんな夫を見たのは初めてだったという。もうそれで奥さまはびっくりして、とてもお父さんが喜んでいるのがうれしい、こういうところに来てとてもよかった、と話されていた。

さっき紹介いたしましたもう一つの家族の奥さんが、大丈夫よ、心配しないでみんなそうなのだからって励ましていた。そういうやりとりがあって、よかったね、今日来て、っていうような話で第1回は終わりました。

第2回目は、また同じメンバーでの集まりでしたが、その中で次になにしようか、というところが、1回2回ぐらいではなかなか見つけられないという状態かな、と思った。

第3回目も、つい最近あり、毎月1回ずつ開いていきましょうということになっている。ご本人たちは次の会の時には前回のことを忘れてしまっているけれども、あのときにこれがやりたいと言ったから、今度これをやろうということで、そこからスタートして、また続けていくというようなお話を伺っている。

本人ミーティングを必要としているご家族はたくさんいると思う。ご本人たちも自由にいろいろお話ができて仲間意識があってとても楽しそうにしている。その時間が例え月に1回の2時間でもあるということがとてもいいことで、一番の心配は、次の月にどうやってここに本人を連れて来ようかしらということ家族が心配していた。本人は忘れてしまうので、何でいくんだ、どうしてい

くんだと聞かれるし、来てしまえば楽しいのだろうけれども、またそれがちょっと心配です、ということで、様々な課題というか工夫が求められることだと思った。大変貴重な時間を過ごさせていただいた。

(部会長)

委員の皆さんお忙しい中、新たな取り組みに多大なご協力を頂戴して感謝する。

このワーキングそのものの運営の充実とワーキングの結果を一般化して、政策や事業に生かしていきたいと思っているので、またお願いできればと思う。

それでは今後の認知症施策をどうしていくか、このペーパーをたたき台にして、今日はざっくばらんにご意見を頂戴できればと思う。いかがか。

(委員)

当事者の声を施策に生かしていくということが、実現していくというのは本当に素晴らしいと思います。これは練馬区の、いままでの皆さんの取り組みの積み重ねだと思って感慨深く聞かせていただきました。

(部会長)

今後、認知症施策で取り組んでほしい、アイデアで結構ですのでいかがか。

(委員)

高齢ドライバーの件に関して、免許を返納し運転しなくなっても生活が不便にならない施策とセットになってないと。免許を返納したあとの生活が不便だと思う。そこはこの施策に入れるものではないかもしれないのですが、リンクさせて推進していただきたい。

(委員)

高齢ドライバーの問題は、地域包括支援センターの地域ケア会議でも取り上げられている。地域でも話し合われていることを吸い上げて、今後どういった形にできるのか検討させていただく。

(委員)

地域包括支援センターの会議の準備会があり、バスの便が少なく買い物や本人が出かけるのが大変難しくなっている、という話題が出ていた。それは地域の中で考える内容ですが、なんとかうまくできる方法はないか、区も一緒に考えてほしい、という意見が出ていた。

また、認知症サポーター養成講座では、家族、介護している人たちへのサポートやその方々の傾聴といった訓練をやっていると思う。認知症のご本人とお話する練習も取り上げていただきたい。というのも、認知症の方にインタビューをして、子供の頃どうでしたかとか、どんな結婚生活でしたかとか、お子様はどのように育てましたか、と聞くといういろいろお話してくださったことがある。それを小さな冊子にして、こういうお話し聞きましたよね、と見せると、大変いきいきとして喜ばれた。そういう活動をして、私自身もその人の人生をうかがうということで、大変興味深く話を聞

かせていただいたと同時に、その方もどんどんお変わりになっていく姿が見て心地よかった。

ぜひサポーター養成講座にそういうような内容も加えていただけるとありがたい。

(事務局)

先ほどの免許返納のあとの話しですが、地域包括支援センターでも免許を返納しないケースもたくさんあり、返納したけれどもその後どうしたらいいか、というケースもたくさん抱えているという状況がある。今、地域包括支援センターが熱心に取り組んでいる中身としては、その方の生活圏域を少しせばめていく、例えば遠方の病院に通っていた方は、病院の先生と近隣のかかりつけ医と話し合っ、普段は遠方の病院に足を運ぶよりは近くのかかりつけ医に行く、あるいは近くの病院に切り替えるということで、車がなくなるとも生活できる圏域で暮らせるようにしていく、そういった生活の整理のようなことにも取り組んでいる。

また、サポーターの話では、区でも認知症サポーター養成講座を受けた後にステップアップ講座を行っている。主には認知症の方への声かけ講座であり、どのように声をかけていくか、認知症なのかなと思ってもなかなか声をかけられない場面に出くわすことがある。そういったときにどのような目線で、どのような声かけをして、どのような心持で当たればいいのかを学ぶ内容であり、今後も丁寧にやっていきたい。

ステップアップ講座も、認知症施策推進大綱では、各自治体で取り組んでいく必要があるということと、さらにそこからサポーターを自治体の事業やボランティアといったところに活用していくという施策がうち出されている、そこにも今後力を入れていく。

現在、ステップアップ講座では、傾聴の仕方を学ぶ方を募集し、ボランティアにつなげたりしている。先日家族会の方を話しているときに、いわゆるチームオレンジ、認知症サポーターの方々を家族支援に活用していくに当たっては、今日の報告にある本人の生きがいや過去の生きざまに寄り添える人材の育成であるとか傾聴できる支援者の育成が必要である、家族会のなかでもそういった支援者を育てていくことが大事と話されていた。区も協働して支援者やボランティアの育成をしていきたい。

(部会長)

他、いかがでしょうか。

(委員)

本人へのインタビューをして意見を聞き出したりご本人の歴史を伺うという活動はとっても賛成です。なぜかという傾聴といっても、では何かお話しください、なんでも話してください、というのは、認知症の人でもそうだし、私たち自身だって何でもこの人にしゃべっていいのか、不安になります。そのためには、例えば、ご本人の出身地やご本人の前職とかを手がかりにして、なかなか心を開かない人の心を少しずつ開いていくという体験が必要で、そのためには、聞き書きとかインタビューっていう形式が、とても良い経験値になるのではないかと思う。

最近週刊誌にうちの事業所が取り上げられて、それをネットでコメントの載るようなところに載った。こんなうまくいく例はおかしいと、こんなの軽い人たちだ、とコメントがあった。うちは半

数以上が認知症の重度の方です。認知症の人たちはどうしようもない人たちだ、というようなコメントが載るわけです。まだまだ認知症に対する偏見は非常に大きい。たとえサポーター養成講座を受けたとしてもなかなか偏見は取り除かれないのではないかと。それは実際に本人に接することによって、まずはサポーターの皆さん自身の心を開いてほしい、偏見を取り除いてほしい、という思いがある。そのために私たち地域密着型サービスに運営推進会議があるので、例えば養成講座のサポーターの皆さんの中から実際に認知症の人と触れ合いたい、お話を伺いたい、ということがあれば、運営推進会議に来ていただいても大歓迎ですし、そういったことでサポーターの皆さんを通して区民全体の偏見を少しでも取り除くきっかけになれば嬉しい。

(事務局)

今回本人ミーティングに委員の皆さまと参加させて頂き、皆さん話を引き出すのがすごくうまい。こちらも学ばせていただいた。なぜここに連れてこられたかわからないと言って硬い表情でいた方が、委員が話しかけたら和んで趣味の話しを始めた。そういった引き出す力が必要かと考えさせられた。

また、運営推進会議へのサポーターの参加について、区内の事業所の協力を得ながら取り組んで行けたらとおもう。介護事業者連絡協議会と区の意見交換の場のなかで、事業所としてなにか協力できることはないか、困ったときの家族とか本人の駆け込み寺になったり、サポーターの育成にも力になりますよ、と言ってくださる事業所もあり、今後も協力いただきたい。

(委員)

先日、練馬光が丘病院にご家族が付き添えないので最初から最後まで患者につきそうことがあった。ずっと看護師をされてきた方で、障害の方の支援なども何十年もされてきた方、今もそういったところのボランティアに顔を出されたり、顔を出されると昔からの利用者さんにとっても頼りにされているような方です。

娘さん家族がすごく心配されているので、本人は1人で行けるよと頑張ってはみるのですが、様々な手続き等もある日だったので、今日はちょっと大事なことがあるので私はついていだけだから、と言っていたのですが、同行させていただければ頼りにされてしまう。

ところどころで例えば自分の診ていただく科からいつ会計にうつればいいのかとか、はいこれお渡ししますね、と渡されるけど、次はどこに行ってください、という声かけがないので、終わりがわからない。ここから次に行くタイミングがわからない、聞いてみようかと思うけど、私のこと多分普通だと思っているだろうから、なんかもう一回聞いていいですかって聞けない。と言われると、わからないことがあったらなんでもお聞きください、みたいな優しい張り紙があると、声をかけることができるのでは。

また、一緒に会計のところまで待っていると、この番号が出た方はお会計が終わっています、というディスプレイが一つあるのですが、私達が座っていた場所は、出入口の方を見る並びの椅子で、ディスプレイは振り向かないと番号が見えない。目の前の向きにもディスプレイがほしい。案内も最初だけ大きい番号で表示されるけど、その後小さい番号でしか表示しないから、見逃してずっと待たされそう、お会計まだですかと向こうから声かけてくれればいけど、と話されて、切実な

声だと思ふ。

一緒に行っているのですということを聞けるが、やっぱり今日は1人で頑張ってみて、と一人で行かせたら、おそらく最初から最後までドキドキして、そんなことも誰にも言えずに、誰かが支えてあげればできることもできなかつたりした通院だったのかなと思う。やはり認知症があってもなくてもご高齢の方、そして病院に通院されている方は、その日はちょっと体調が悪くて、普段だったらできることでもできないようなこともあるところなので、私たち専門職がそういったところにも働きかけていかななくてはいけないのかなと、切実に教えていただいた。

あとは、長谷川先生のNHKスペシャルを、利用者さんご本人とかご家族もご覧になった方がたくさんいます。デイサービスに行きなさいよ、家族をレスパイトさせなきゃいけないんだ、と言っていた先生が、こんなところにいられない、早く帰りたいという。冗談をまじえながらのご本人の声をきかせて頂き、本当に勉強させていただいてありがたいなと、涙が止まらなくて何度も見た。ああいったことも参考にしながら皆さんと一緒させて頂きたいと思った。

(事務局)

病院の案内が不十分ということでは病院ではなにか配慮されていますか。

(委員)

そんなに大きな病院ではないので、画面があつてそこに番号が出てきてみたいとか、そこまではできてない。ご家族だったり、ご本人だったり、診察が終わった後、どういう順番に進んで会計したらいいのか、わかりづらいだろうと思うのですが、基本的に診察が始まると一つの黄色いファイルをもって移動してもらう。外来のスタッフや医事課のスタッフが、黄色いファイルを持っていて困っている人がいたらわかるようになっていて、比較的小さな病院なので、周りのスタッフが気付けるような工夫はしている。大きな病院では一人一人を見守る余裕はないのでは。うちは外来に来ている数がそんなには多くはないので、そういうご工夫は今のところはできている。

また、病院で地域支援室というのを数年前から作っていて、そもそもが精神のアウトリーチを始めるところでしたが、今、認知症のアウトリーチをしていただけないか、という相談が、ここ1年間増えてきている。ご家族が連れてくるのが大変という相談が地域包括支援センターがらみで割と多い。民間の病院ですので診療報酬をどうするということところで、ご家族とやりとりしながら、実際アウトリーチ、訪問までに時間がかかることがかなりあり、計画の方向性の中に、アウトリーチの検討があるのですが、区の事業でそういった部分で、例えば初回だけ補助金が出るみたいなことで、まずは医療のチームの誰かスタッフが動きやすいような仕組みを区の方で考えていただけると非常にありがたい。

(事務局)

アウトリーチに関しては、専門病院に打診はしている。

(部会長)

他、いかがでしょうか。

(委員)

利用者のご家族からの話が多いのが、メディアやニュースとかで認知症の方の賠償責任の話が出てくるけれど、例えば夫が外に出るときは、必ずついてかなきゃいけない、と言う人がいる。どうして、と聞いたら、夫が外で何をやらすかわからないから、ついていかなきゃ危ないって、お金どれだけ取られるかわかんないって、ただ情報だけが独り歩きしてるかなというところもあるけれども、そうしたときに、ここに書かれている民間保険を活用した事故賠償制度とか弁護士さんの相談とかあれば、もう少しご家族がリラックスして介護ができるのかなと感じている。

(委員)

民間の賠償保険を実際導入する自治体が増えている中で、我々の方も実際どういった効果、影響があるのかということの研究しているところです。お話を聞くと、民間の保険なので実際何かあったときの賠償など様々ですけれども、実際に機能するのか、様々課題もあると聞いている。そういった課題も含めて、整理させていただき、どういった形を取るか検討していきたいと考えている。徘徊については、今取り組んでいる GPS 利用した早期発見という事業の推進等も並行して検討したいと思っている。

(部会長)

次回 5 月にあらためて認知症施策についてご意見をうかがう機会を設けさせていただくので、本日はこれで、つぎに進めさせて頂く。

その他、委員の方から情報提供ありますか。

(委員)

来月 2 月 1 日に練馬つながるフェスタ 2020 が開催される。練馬つながるフェスタ自体は地域活動団体、NPO や町会自治会それと区民をつなげて区民協働を活性化しようというイベントですが、今回で 4 回目。私は最初から関わって去年から実行委員長になっています、その中の一つのブースとしてカフェ人生会議を開催する。ココネリ 3 階のカフェクローバーをお借りして、もしばなゲームを使った人生会議を体験していただき、ACP (人生会議) について区民の皆さんに少しでも伝えていきたい。

今年度は練馬光が丘病院の摂食嚥下チームの皆さんに加わっていただいて、VR 体験の食事介助がある。ゴーグルをかけると食事介助をされているシーンが始まるというもの。それを通して食事介助をされるというのはどういう気持ちだろうとか、どういう光景が広がるのだろう、というのを見たい。あとは介護食品、食べやすい、噛みやすい、飲みやすい食べ物はどういうものかを、最後の一口、何を食べたいかわかりませんが、最後の一口まで全うするというのも一つの人生会議 ACP のイベントとして加わっていただいている。つながるフェスタ自体は、お子さん、環境、緑、様々な活動団体が加わった一つのお祭りですので、ぜひ楽しんでいただきたい。

(部会長)

区の事業にいろいろな形でご協力いただきまして感謝する。ぜひお立ち寄りいただければと思う。

閉会